

平成29年 4月17日

四国電力株式会社

「防災訓練実施結果報告書」の国への提出について

当社は、「伊方発電所原子力事業者防災業務計画」および「伊方発電所原子炉施設保安規定」に基づき種々の訓練を実施しております。そのうち、原子力災害対策特別措置法第13条の2第1項の規定に基づく報告対象の訓練について「防災訓練実施結果報告書」としてとりまとめ、本日、国に提出しました。

その要旨については、別紙のとおりです。

別紙 「防災訓練実施結果報告書」の要旨

以上

「防災訓練実施結果報告書」の要旨

1. 趣旨

平成27年5月29日（前回総合訓練実施日の翌日）から平成29年2月16日（今回総合訓練実施日）の間に、当社伊方発電所等で実施した総合訓練および要素訓練について、原子力規制委員会へ報告した。

2. 報告年月日

平成29年 4月17日

3. 防災訓練実施結果の要旨

(1) 総合訓練（実施年月日：平成29年 2月16日 参加人数：267名）

a. 訓練目的

- ・ 原子力防災組織が原子力災害時に有効に機能すること。
- ・ 原子力施設事態即応センター（災害対策本部（松山、高松））における伊方発電所への支援活動および対外対応の習熟を図ること。
- ・ 伊方発電所において、夜間においても現地活動班における緊急時対応が昼間と同等に実施できること、および暗所での作業をサポートするための可搬型照明の設置作業が実施できること。

b. 想定事象

伊方発電所3号機において、全交流電源喪失した状態が1時間以上継続することにより、原子力災害対策特別措置法第15条事象に至るとともに、一次冷却材の漏えいが発生する原子力災害を想定

c. 訓練項目

防災訓練

災害対策本部の活動について実動訓練を行い、原子力災害の状況把握や伊方発電所と原子力施設事態即応センター（松山、高松）との情報連携を実施。

通報訓練

原子力規制庁への通報連絡および社内関係個所への情報連絡を実施。また、原子力施設事態即応センター（高松）から他の原子力事業者および原子力緊急事態支援組織への支援要請に係る連絡を実施。

伊方発電所における原子力災害の発生について、原子力防災管理者より原子力規制庁緊急時対応センター（ERC）への通報連絡および社内関係個所への情報連絡を実施。

AM訓練

訓練用プラントパラメータに基づくプラント挙動の考察、原子力施設事態即応センター（松山）における事象解析システム等を用いた事象進展予測、アクシデントマネジメント策の検討および活動を実施。

緊急時対応訓練

全交流電源喪失事象等の事象進展に応じた電源確保や水源確保などをはじめとする実働訓練を実施。

モニタリング訓練

敷地内のモニタリング(模擬)およびモニタリングポスト等の監視および気象情報等の収集を実施したほか、可搬型モニタの設置を実施。

避難誘導訓練

発電所敷地内および伊方ビジターズハウス(PR館)館内の見学者(模擬)に対する避難誘導を実施。

d. 訓練の評価

訓練目的に対して、以下のとおり概ね達成できたことを確認した。

- ・ 災害対策本部において、各訓練参加者は原子力防災組織要員として状況判断、対策の検討および意思決定を行い、各役割に応じた活動を実施できており、原子力防災組織が原子力災害時に有効に機能することを確認した。
- ・ 原子力施設事態即応センター(災害対策本部(松山、高松))において、各訓練参加者が伊方発電所への支援および対外対応の活動の習熟を図ることができた。また、原子力防災組織として有効に機能することを確認した。
- ・ 伊方発電所において、夜間においても現地活動班における緊急時対応が昼間と同等に実施できることを確認した。また、可搬型照明の設置作業については、社内規定に基づき、可搬型照明の運搬、設置および点灯が適切に実施できていることを確認した。

(2) 要素訓練

a. 訓練項目

通報訓練(実施年月日:平成28年1月13日 参加人数:18名)

シナリオ非提示型にて関係個所への通報連絡訓練を実施。

伊方発電所3号機がタービン軸振動大により自動停止信号が発信したものの、制御棒の一部が挿入不能となり原子炉が停止できない状態を想定。

通報訓練(実施年月日:平成28年2月18日 参加人数:17名)

シナリオ非提示型にて関係個所への通報連絡訓練を実施。

伊方発電所3号機がタービン軸振動大により自動停止信号が発信したものの、制御棒の一部が挿入不能となり原子炉が停止できない状態を想定。

通報訓練(実施年月日:平成28年8月30日 参加人数:17名)

シナリオ非提示型にて関係個所への通報連絡訓練を実施。

伊方発電所3号機がタービン軸振動大により自動停止信号が発信したものの、制御棒の一部が挿入不能となり原子炉が停止できない状態を想定。

通報訓練(実施年月日:平成28年10月6日 参加人数:17名)

シナリオ非提示型にて関係個所への通報連絡訓練を実施。

伊方発電所3号機がタービン軸振動大により自動停止信号が発信したものの、制御棒の一部が挿入不能となり原子炉が停止できない状態を想定。

原子力災害医療訓練(実施年月日:平成28年11月11日 参加人数:16名)

地震により、伊方発電所の管理区域等で被ばく患者を含む多数(9名)の傷病者が発生したことを想定し、応急救護、搬出および汚染拡大防止措置等の訓練を実施。(関係自治体および医療機関等の関係機関との合同訓練)

b . 訓練の評価

通報訓練

シナリオ非提示型の訓練において、関係個所への通報連絡が良好に実施できていることを確認した。

原子力災害医療訓練

傷病者の情報提供、応急救護、搬送および汚染拡大防止措置等の対応について、迅速かつ適切に実施できていることを確認した。

今後も継続した訓練を行い、対応能力の維持、向上に努めていく。

以 上